

令和6年度「チャレンジ！子どもがふみだす体験活動応援事業」

「ふくしまの未来」へつなぐ体験応援事業

3次募集スタート!!
(今年度の最終募集です!!)

1. 事業内容

東日本大震災から13年が経ちますが、原子力発電所事故による様々な風評被害や震災を知らない世代の増加と記憶の風化は大きな問題です。このような状況下において、ふるさとである福島の実状を正しく理解し、復興の当事者として復興に寄与する新生ふくしまを担うたくましい子どもの育成が重要です。

本事業「ふくしまの未来」をつなぐ体験応援事業は、震災後のふるさと福島を包括的に学び、主体的に考え、行動し、表現する社会体験活動をする子どもたちを応援します。

【1】元気を届ける交流・体験事業

被災者や避難者との交流を通して、
子どもたちが元気を発信する活動
例) 仮設住宅、復興住宅等訪問、
被災者や避難者との交流・協働活動等
(清掃活動・美化活動・農業体験、伝統活動、
文化活動、震災の継承活動等)



【2】今を知り思いを伝える事業

- ① ふくしまの「今を知る」活動
被災地や震災関連施設等の訪問及び
被災者や避難者との交流・協働活動等
- ② 復興への「思いを伝える」活動
ふくしまの復興について主体的に考え、
行動し、表現する活動等

2. 補助対象団体

福島県内に主たる活動拠点があり、県内に事務所を有し、
地域において青少年育成活動に取り組んでいる実績を有している団体

国公立学校、市町村、PTA、特定非営利活動法人、子ども会、公益法人、学校法人、復興支援団体、
社会教育関係団体、青年会議所、協同組合、民間団体や企業等

3. 補助対象経費 補助対象経費の80%以内 【1】上限50万円【2】上限200万円

- ※ 補助対象経費として認められない費用があります。補助金交付要綱及び実施要領で必ず確認を！
- ※ 海外渡航費（航空券等）に関わる補助は、1次募集で予算額に達したため終了しました。

なお、海外での活動費、交通費、宿泊費及びオンラインでの交流に関わる経費は、引き続き補助対象となります。

4. 申請（提出書類）

○ 申請方法：所定の提出書類をメールまたは郵送、持参により提出

○ 申請締切：令和6年9月6日（金） 17時必着

○ 提出書類：

- ・補助金交付申請書
- ・事業計画書
- ・収支予算書
- ・団体概要書 等

様式は、福島県社会教育課の
HPからダウンロード
⇒「福島県社会教育課
ふくしまの未来」で検索

申請先

福島県教育庁社会教育課内

「ふくしまの未来」へつなぐ体験応援事業 係

〒960-8688 福島市杉妻町2番16号

024-521-7799

Eメール:k.syakaikyoku@pref.fukushima.lg.jp

※ メール送付後、電話で確認をお願いします。

5. スケジュール

○ 9月下旬頃（採択事業の決定）

→10月上旬頃（補助金交付決定）→事業実施

実践事例

事業名	震災の記憶と教訓を次の世代へ 2023 震災を知り、福島の今を国内外の高校生に発信する	
団体名	福島県立あさか開成高等学校 日本文化部・読み聞かせボランティア部オイガ	
【事業概要】		
<ol style="list-style-type: none"> ①長崎の原爆を学び、平和への取り組みや語り継ぐ活動から福島の復興を考える。 ②ふくおか市民ネットワークとの交流活動。 ③広島県で避難者支援や復興支援に取り組む団体との交流活動。 ④語り継ぐ活動から語り継ぐ意義(想い)とご縁(つながり)を大切にした。 ⑤世界の高校生とオンラインで交流し、ふくしまを発信した。 		

事業名	『福島の～今を生きる声～を明日へ伝える』	
団体名	子どもに音楽を贈る会	
【事業概要】		
<ol style="list-style-type: none"> ①「福島しあわせ運べるように今の思いを発信プロジェクト」 ②発信用冊子「心の防災コーディネートMAP③」取材・学習会 ③阪神淡路大震災学習会・発信活動 ④発信用冊子「心の防災コーディネートMAP③」配布・寄贈 		

事業名	ふくしまの想いがめぐる ～Fukushima と世界を” ツナグタビ” ～	
団体名	聖光学院高等学校 普通科 進学探究コース タンキューブ	
【事業概要】		
<ol style="list-style-type: none"> ①動画撮影 ②留学生との交流（取り組み発表及び国際交流） ③留学生との交流（お茶の調合、パッケージ、ネーミングの選定） ④東日本大震災伝承館及び震災遺構・請戸小学校見学 ⑤留学生との交流（新商品に向けての投票、紹介動画についての議論） ⑥国見町のイベントにて試飲及びアンケートの実施 		

事業名	地域探究が深める・つなげる地域と震災の記憶 ～福島・台湾をつなぐ～	
団体名	一般社団法人 未来の準備室	
【事業概要】		
<ol style="list-style-type: none"> ①事前研修及び福島県内での取材活動（白河市葉ノ木平地区土砂災害等） ②台湾訪問（1999年台湾大地震の被災状況・復興の記録の視察等） <p>※ 台日文化友好交流基金会と連携し、東日本大震災について発信を行ない、白河市葉ノ木平地区で行われている高校生の探究活動（そなキャン）と、福島第一原子力発電所処理水の現状について発表し、日本語を学ぶ学生らと対話した。</p> <ol style="list-style-type: none"> ③白河市内での活動報告会（地域住民と対話） 		